

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和4年度10月号

#### ○ 概要

- (1) 令和4年度10月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,454億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲0.1%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,250円（伸び率▲2.2%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,779億円（伸び率+4.9%）薬剤料が4,662億円（伸び率▲1.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が927億円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,297円（伸び率▲4.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率+1.2%）、27.5日（伸び率▲0.6%）、69円（伸び率▲5.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,696億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲99億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の680億円（伸び幅▲7億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+37億円（総額475億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,696 億円 (▲99 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(680 億円)	21 循環器官用薬 (584 億円)	11 中枢神経系用薬 (545 億円)
0歳以上	21.2 億円	44 アレルギー用薬	22 呼吸器官用薬	61 抗生物質製剤
5歳未満	(+0.8 億円)	(7.6 億円)	(4.5 億円)	(2.7 億円)
5歳以上	87.6 億円	44 アレルギー用薬	11 中枢神経系用薬	39 その他の代謝性 医薬品(6.7 億円)
15歳未満	(+5.0 億円)	(31.9 億円)	(26.3 億円)	
15歳以上	1,364 億円	11 中枢神経系用薬	39 その他の代謝性 医薬品(260 億円)	21 循環器官用薬
65歳未満	(+4 億円)	(274 億円)		(184 億円)
65歳以上	845 億円	39 その他の代謝性 医薬品(186 億円)	21 循環器官用薬 (151 億円)	42 腫瘍用薬 (145 億円)
75歳未満	(▲65 億円)			
75歳以上	1,379 億円 (▲43 億円)	21 循環器官用薬 (246 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(226 億円)	42 腫瘍用薬 (174 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,250円（伸び率▲2.2%）で、最も高かったのは高知県（10,978円（伸び率▲7.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,812円（伸び率▲1.5%））であった。
- また、伸び率が最も高かったのは鹿児島県（伸び率+0.1%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲7.0%）であった。（→P.31～32）

## ««後発医薬品の使用状況について»»

### 【後発医薬品割合】(→P39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース(新指標) <sup>注)</sup>	83.2 %	+1.5 %
薬剤料ベース	19.9 %	▲0.2 %
後発品調剤率	79.5 %	+1.6 %
(参考)数量ベース(旧指標)	59.0 %	+0.0 %

注) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

### 【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.8 %	+9.0 % (0歳以上 5歳未満)	▲7.9 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合(薬剤料ベース)	19.9 %	29.3 % (0歳以上 5歳未満)	11.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合(数量ベース、新指標)	83.2 %	87.6 % (100歳以上)	78.1 % (10歳以上 15歳未満)

### 【後発医薬品(内服薬) 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順(総額)		
		1位	2位	3位
全年齢	787 億円 (▲26 億円)	21 循環器官用薬 (239 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (80 億円)
0歳以上 5歳未満	8.4 億円 (+1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (4.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	16.9 億円 (+0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (9.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	271 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (62 億円)	44 アレルギー用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	178 億円 (▲16 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)
75歳以上	312 億円 (▲10 億円)	21 循環器官用薬 (101 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (39 億円)

### 【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~60)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,328 円	1,696 円(北海道)	1,119 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.8%	▲2.7 %(鹿児島県)	▲6.7 %(岡山県)
新指標による後発医薬品割合(数量ベース)	83.2 %	89.9 %(沖縄県)	79.4 %(徳島県)
後発医薬品割合(薬剤料ベース)	19.9 %	23.5 %(鹿児島県)	17.1 %(京都府)
後発医薬品調剤率	79.5 %	84.8 %(沖縄県)	74.9 %(東京都)
(参考)旧指標による後発医薬品割合(数量ベース)	59.0 %	66.9 %(沖縄県)	55.2 %(東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。